

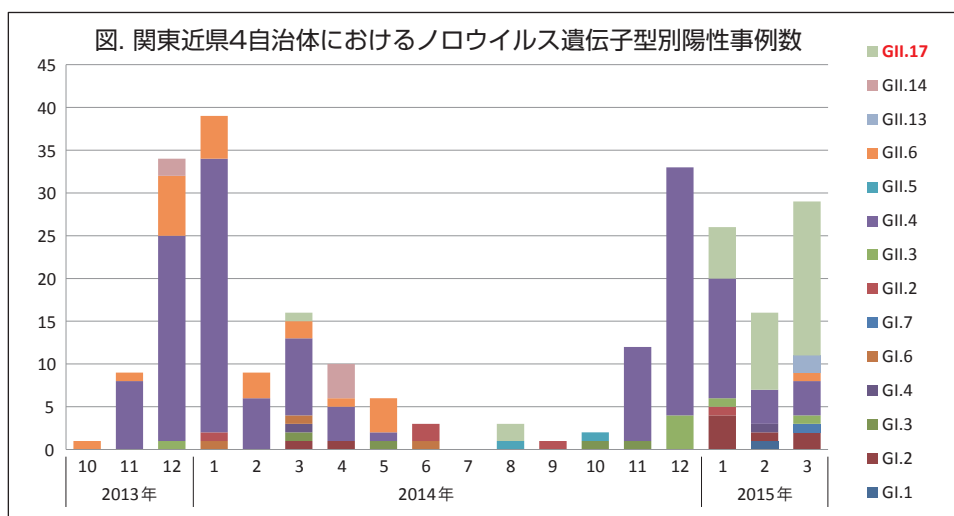


# 新規遺伝子型ノロウイルス GII.P17-GII.17

新規遺伝子型ノロウイルスGII.P17-GII.17は、2013/14 冬季シーズンに川崎市内で発生した食中毒事例を含む感染性胃腸炎患者から検出された、新たな遺伝子型のノロウイルスです。国立感染症研究所の調査から、2014/15 冬季シーズンの1月以降に広域流行を引き起こしていたことが明らかになっており、2015年9月2日付けの「新規遺伝子型ノロウイルスGII.P17-GII.17の流行」(国立感染症研究所)<sup>1)</sup>で「この新規ノロウイルスGII.P17-GII.17は、中国、台湾などでも流行が確認されており、2015/16シーズンに大流行する可能性がある。そのため今季の流行の立ち上がりに厳重な監視が必要である。」として、注意を呼びかけています。

GII.17変異株のように、突然変異のノロウイルスに対しては免疫を持たない人が多いことから、感染しやすく、流行の可能性があると考えられます。

川崎市以外の自治体で情報収集が可能であった長野県、埼玉県ならびに栃木県におけるGII.17の検出状況では、2014/15 冬季シーズンにおいて、2014年12月まではGII.4が主流の遺伝子型でしたが、2015年1月からGII.17が検出され始め、2月ならびに3月にはGII.17が優位となっています<sup>1)</sup>。



(国立感染症研究所 <http://www.nih.go.jp/niid/images/iasr/rapid/graph/Vol.36/graph/pt42731.gif>よりグラフ作成)

## 新規遺伝子型ノロウイルスの感染対策及び消毒剤感受性

ノロウイルスの消毒効果については、ヒトノロウイルスの消毒効果が技術的に確立していないため、従来からネコカリシウイルスやマウスノロウイルスなどの代替ウイルスによる不活化効果をもとに判定されており、変異株の消毒効果についても同様と考えられます。また、CDCの「最新ノロウイルスのアウトブレイクの管理と疾病予防のガイドライン」では、これら2種のヒトノロウイルス代替ウイルスは性質が異なるため、どちらか一方の代替ウイルスだけに効果的な消毒剤よりも、両代替ウイルスに対して効果的な消毒剤の方が、ヒトノロウイルスに対して効果的である可能性を示しています<sup>2)</sup>。

感染対策についても、従来のノロウイルスと同様に考え、基本的には標準予防策、接触予防策に加え、飛沫予防策を実施する(エアロゾル対策が必要な場合は空気予防策をとる)こととなりますが、今後の動向に注意が必要です。

- 2015-2016年度は新たな遺伝子型のノロウイルスGII.17が流行する可能性が高い(従来型 GII.4)
- この新規遺伝子型ノロウイルスは、中国、台湾などでも流行が確認されている
- 簡易検査キットでは検出感度が低い可能性があるとの報告がある<sup>3)</sup>
- 新規遺伝子型ノロウイルスに対しては免疫を持たない人が多いことから、感染しやすく、流行の可能性が高い
- 感染対策については従来の標準予防策と接触・飛沫感染予防策の実施とこまめな手洗いを推奨

ノロウイルスの概要と感染対策については、丸石製薬ホームページ (<http://www.maruishi-pharm.co.jp/med2/disinf-noro-virus.html>) 及びリーフレットでご紹介しております。

リーフレットご要望の節は弊社病院担当者までご連絡ください。

### 参考資料

- 1) 国立感染症研究所：新規遺伝子型ノロウイルス GII.P17-GII.17 の流行  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/778-disease-based/na/norovirus/idsc/iasr-news/5903-pr4273.html>
- 2) 最新ノロウイルスのアウトブレイクの管理と疾病予防のガイドライン：  
MMWR / March 4, 2011 / 60(RR03);1-15, Updated Norovirus Outbreak Management and Disease Prevention Guidelines
- 3) 国立感染症研究所：ノロウイルス GII.17 型の流行とその特徴について—三重県  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/1023-disease-based/na/norovirus/idsc/iasr-in.html>